

地域再生計画(汚水処理施設整備交付金)

事後評価シート

平成22年12月
岩手県岩手町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岩手県	市町村名	岩手町	地域再生計画名	北上川の源泉いわてまち「清流再生」計画
計画期間	平成17年度～平成21年度	交付金交付期間	平成17年度～平成21年度		

1)事業の実施状況	当初計画どおり実施した事業	<ul style="list-style-type: none"> 公共下水道事業(新町地区、石神下地区、天神前地区、野原地区、雪浦地区、橋場地区、川口駅通地区、上町地区、下町地区及び境田地区) 浄化槽(市町村設置型) 集合処理地区を除く町内全域(市町村設置型での実施に住民の理解が得られた地域) 浄化槽(個人設置型) 集合処理地区を除く町内全域(市町村設置型での実施に住民の理解が得られなかった地域)
-----------	---------------	---

2)地域再生計画に記載した数値目標の達成状況	指標		単位	従前値		実績値		事後評価	効果発現要因
	目標1	目標2		基準年度	基準年度	基準年度	事後評価		総合所見
目標1	汚水処理人口普及率を24.6%から39.0%に向上	%	24.6	平成15年度末	44.0	平成21年度末	○	公共下水道において人口集積区域を優先的に集中整備したことにより、目標を大きく達成することができた。	
目標2	岩崎橋(北上川)における水質環境基準値(最新値平成15年度BOD=1.0mg/L)を過去10年間で最も低い値(BOD=0.8mg/L)まで改善	mg/L	1.0	平成15年度末	0.7	平成21年度末	○	汚水処理施設の整備が進捗したことにより、平成15年度末の水洗化率19.2%が平成21年度末で32.4%となり、水洗化率向上が水質環境基準値の改善に大きく寄与している。	

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	計画値		実績値		事後評価	効果発現要因
	その他の数値指標1	その他の数値指標2		計画値	実績値	計画値	実績値		総合所見
その他の数値指標1	下水道整備 処理場:OD1池増設、管きょ:L=7,300m	m	1	7,300	1	6,433	○ △	人口集積区域を優先整備することにより、管きょ延長を抑えつつ面整備を進め、普及率を向上することができた。	
その他の数値指標2	浄化槽(市町村設置型)	基	80	43	△			浄化槽事業の進捗は個人の資力と設置意欲に負うところが大きい中で、リーマンショック以後の経済状況が設置意欲に水を差す結果となったことは否めず、今後、設置意欲の喚起に取り組む必要がある。	
その他の数値指標3	浄化槽(個人設置型)	基	95	80	△				

4)実施過程の評価	年度	公共下水道		浄化槽(市町村設置型)		浄化槽(個人設置型)		汚水処理普及人口		汚水処理人口普及率		事後評価	実施状況の検証
		上段:整備延長(m)	下段:事業費(千円)	上段:整備基数(基)	下段:事業費(千円)	上段:整備基数(基)	下段:事業費(千円)	(人)		(%)			
		計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績		
平成17年度	500	514			40	35	5,449	5,608	32.5	33.4	○	汚水処理人口普及率が+0.9ポイントで、計画どおりの整備ができた。	
平成18年度	1,500	2,094			35	17	5,614	6,015	34.8	36.3	○	浄化槽事業費が落ち込んだものの、下水道の着実な整備により、普及率は計画を上回った。	
平成19年度	2,500	1,855	20	17	7	10	5,744	6,019	36.2	37.0	○	平成19年度導入の市町村型浄化槽事業が経済市況の影響により計画を下回った。平成20年度も同様。	
平成20年度	1,500	1,040	30	12	7	7	5,893	6,120	37.7	38.3	○	処理場OD池増設を平成20・21年度の2箇年で実施。処理場整備のため下水道管きょ整備延長を抑制した。	
平成21年度	1,300	930	30	14	6	11	6,000	6,933	39.0	44.0	○	普及率は、下水道の面整備により大きく伸びた。一方、市町村型浄化槽は、料金を値下げ改定したものの、整備基数は若干の伸びに留まっている。	
合計	7,300	6,433	80	43	95	80	1,070,000	1,072,360	88,320	34,329	40,758	33,720	

総合評価と今後の方策	<p>【総合評価】少子高齢化、老人世帯の増加、過疎化、近年の経済状況など、汚水処理事業にとってマイナス要素が多い中、汚水処理施設整備交付金を活用することにより効果的に汚水処理人口普及率を向上することができた。また、水洗化の進捗によって水質環境基準目標を達成できたことは、北上川源泉の地としての責務を果たしたといえる。</p> <p>【今後の方策】町全体の汚水処理区域(公共下水道と浄化槽の区分け)を見直し、効率的かつ計画的な汚水処理施設整備を進める。公共下水道では、経済的な施工技術を積極導入し事業経営の安定を図るとともに、人口の半数以上を占める浄化槽整備区域においては、整備を促進するための啓発を行いつつ他事業と絡めた促進施策の展開を検討する。</p>
------------	---